

無線環境のプログラミング教育で、新しい授業を実現

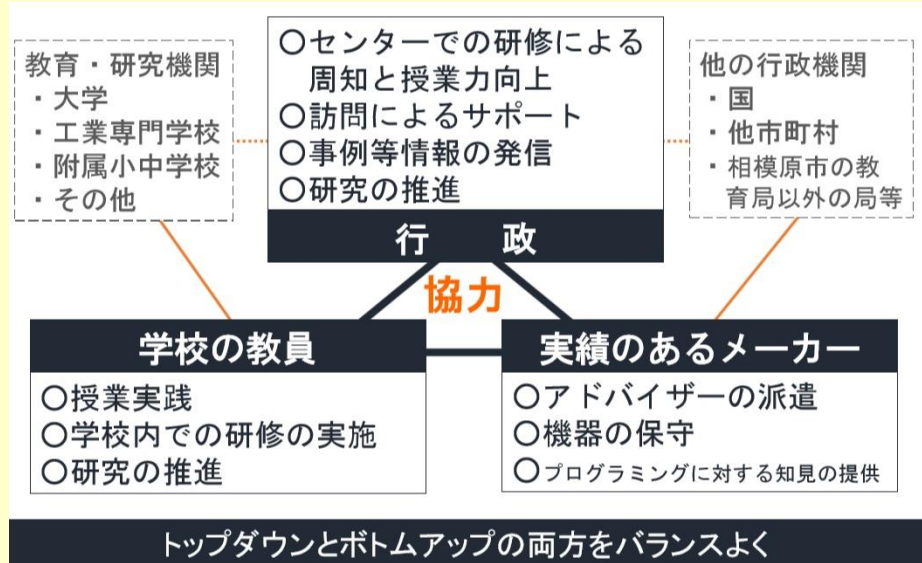
(相模原市教育委員会)

“知恵と人脈”で教員の心理的ハードルを低減、“教員魂”をくすぐるIoT活用

2020年度から小・中・高校でプログラミング教育が 順次必修化。情報活用能力の習得が重要課題に

1. プログラミング教育を施策として位置づけ
2. 推進を進める上での問題と課題、および解決策を明確化
→ 特に教員の心理的ハードルを下げることに注力
3. 解決策を円滑に実行する3つの視点を設定
 - ・プログラミング教育の目標を達成する学習活動の整理
 - ・小中系統的な視点から育成する力と学習を明確化
 - ・さまざまな機関と連携し、授業づくりを推進

無線環境でタブレットを活用する授業と
パソコンルームのプログラミング授業で深い学び



「指針提示」「授業力向上」「環境整備」で、全校授業を達成

- ◆小学4・5年生の全員がプログラミング授業を履修。
- ◆半数以上の学校が自発的に授業を実践。
- ◆授業の成果を論理的思考の育成と答える教員が4割。
- ◆タブレット＋無線環境ならではのメリット
 - ・ケーブル接続や通信設定にとらわれない。
 - ・机の配置などの物理的制約に縛られない。



- ・児童は意思表示しやすく、教員は授業を発展しやすい。
- ・主体的な学びを促し、全ての子供が主役になれる。